

## ◎寮務委員会

寮務主事 谷口 佳文

### 1. 学寮の運営方針 「学寮の環境美化」

#### 重点実施項目

##### [1] 寮内外の清掃、整理整頓

- ・昨年までより寮大掃除の回数を増やし、年間行事に設定して取り組んだ。
- ・宿直教員に強化巡回（宿直教員2人で毎日1つの棟を集中して巡回）を依頼し、共用部分のゴミ捨て、居室の清掃などの指導をしてもらった。
- ・第二浴室北側倉庫に棚を設置し、寮の物品、寮生会行事などに使用する物品を整理して保管できるようにした。

##### [2] いたんだ箇所の補修・修理（自分達でできることは自分達でやる）

- ・網戸を補修するための用具をそろえ、寮生が自ら補修できるよう準備を行った。しかしながら、寮生が自ら申し出て修繕を行うという活動は見られなかった。補修日を設定して取りかかるような働きかけが必要であった。

### 2. 平成16年度実施計画

#### 2. 1 低学年寮生の重点的指導

##### [1] 日課、規則の遵守

- ・宿直教員に強化巡回の実施を依頼し、学習時間帯の過ごし方の指導、点呼の徹底を行った。
- ・毎週1回、指導寮生および指導寮生補佐の連絡会を開き、生活指導、規則の遵守について話し合った。

##### [2] 担任との連携による遅刻、欠課の減少

- ・寮内の朝巡回時に寮に残っている学生のチェックリストを作成し、生活指導に利用した。また、体調不良で欠席する寮生については、その都度担任に連絡を行った。
- ・830運動の実施に伴い、起床時間、食事時間、協同授業の実施時間を従来より10分早めた。

#### 2. 2 寮務委員による棟別指導

##### [1] 寮務委員がそれぞれ各棟を担当し生活指導にあたる

- ・4月当初に寮務委員を学寮各棟に割り当てたが、年間を通じた十分な指導はできなかった。指導寮生と継続して連絡をとる方法を工夫する必要がある。

#### 2. 3 女子寮生の生活規則の確立

##### [1] 各種当番、役割の明確化とその実施方法の確立

- ・浴室の清掃、共用部分の清掃、ゴミ捨て等の当番については、女子寮生で話し合っルールを決め、円滑に行われた。
- ・寮生会の役員会に女子寮の代表者が加わり、寮行事への女子寮生の関わり方などについて話し合った。

## 2. 4 学寮HPの充実

### [1] 協同課業、寮行事等寮生活の紹介、更新

- ・中学生を対象としたQ&Aのページの作成を行った。
- ・学寮HPの頻繁な更新はできなかった。

## 2. 5 学寮保護者との連携強化

### [1] 保護者連絡会を継続して実施

- ・11月7日に学寮保護者連絡会を行い、学寮の現状報告、保護者アンケート結果の紹介、給食懇談会の内容、寮生活のビデオ紹介、寮の問題点などについて伝え、保護者の理解を得ると共に連携強化を図った。

### [2] 保護者懇談会を利用して、相談・寮に対する意見、要望を聞く。

- ・7月3、4日の保護者懇談会に、寮務主事、寮務主事補、寮監が学寮管理棟に待機し、保護者からの相談、学寮に対する意見・要望を聞く機会を設けた。

### [3] 保護者との連絡を密にする。(特に低学年寮生)

- ・問題を起こした学生に対し、保護者への早期連絡、懇談を行い早期解決に努めた。
- ・保護者アンケートで寄せられた寮生保護者からの意見・要望に対する寮の取り組みを、高専だよりを通じて連絡した。

## 2. 6 文化講演会・教養講座の計画的実施

### [1] 学年集会において、留学生に話をしてもらうことからスタート

今年度、文化的行事の新たな試みとして以下の内容を実施した。

- ・講話(16年4月)

「伊予聖人 近藤篤山の教え」 講師：野田教員

対象：寮生会役員、指導寮生

- ・留学生による母国(ベトナム)の紹介(16年11月)

講師：コン君、トアン君

対象：1年生寮生

- ・留学生による母国(モンゴル、コロンビア)の紹介(17年1月)

講師：ガンビレグ君、レオナルド君

対象：2年生寮生

- ・中国食文化体験講座(17年1月)

「水餃子づくり」 講師：欧先生(中国語非常勤講師)

対象：女子寮生

## 2. 7 特別残寮の実施

### [1] 特別残寮は引き続き実施する。

- ・夏季特別残寮の実施状況を下表に示す。昨年度に比べ今年度は、インターンシップのための残寮者が多く、また、新たに補習、実力養成講座などの教育活動のために残寮者も加わった。そのため、青雲寮、向陽寮1階だけでは部屋数が不足し、1年生は自室で特別残寮を実施した。今後、さらに特別残寮希望者が増えた場合には、その対応を考えてゆかなければならない。また、特別残寮における問題点を整理して教員会で報告し、議論してもらったが、その改善策についても、検討してゆく必要がある。

表 平成16年度夏季特別寮の実施状況

活動内容	期間		人数	15年度
卒業研究	7/21～8/ 6	8/24～8/27	17人	20人
特別研究	7/21～8/ 6	8/23～8/27	12人	11人
インターンシップ	7/21～8/ 6		9人	1人
体験学習	7/21～8/ 6		13人	3人
集中講義（専攻科）		8/23～8/26	1人	
夏季補習（数学）	7/21～7/23		7人	
実力養成講座（英語）		8/23～8/27	3人	
実力養成講座（電気）		8/23～8/27	4人	
ラグビー部	7/21～7/23		4人	
弓道部	7/21～8/ 6	8/24～8/27	5人	6人
野球部	7/21～8/ 6	8/23～8/27	2人	3人
サッカー部	7/21～8/ 6	8/24～8/27	6人	5人
バスケットボール部	7/28～8/ 2		9人	
テニス部	7/26～8/ 6		5人	8人
バレーボール部	7/21～8/ 6		1人	4人
卓球部	7/21～8/ 6		2人	
剣道部	8/ 2～8/ 4		1人	3人
ソフトテニス部				1人
陸上部				8人
ロボット研究会	7/21～7/30		14人	10人
マルチメディア愛好会				5人
留学生	7/21～8/ 6	8/23～8/31	8人	
計			122人	88人

2. 8 寮の暖房開始時期の検討

〔1〕 11月中旬あるいは下旬の寒くなった時期から暖房を開始

- ・暖冬であったため、例年通り12月から暖房を開始した。
- ・逆に、夏場は非常に暑かったため、学生からの要望により、扇風機の使用に限って延灯を行った。

2. 9 学寮管理棟の有効利用

〔1〕 学寮管理棟をオープンなスペースとして有効な利用方法を検討、実施

- ・従来の寮生会委員会の活動・会合、国領祭や寮祭の準備、消灯後の学習などの利用の他、今年度は、映画鑑賞会、中国食文化体験講座などの活動にも利用された。

2. 10 寮生の自主的活動の推進と支援（ボランティア活動等）

〔1〕 自治会との共同清掃、チャリティーバザーの継続実施

- ・八雲自治会と共同して、学校周辺の溝掃除を5月9日（日）に行った。教員は自治会との連絡、掃除用具の準備および学生との共同作業を行った。
- ・11月27、28日の国領祭において寮生会主催のチャリティーバザーを行なった。昨年を超える96,992円の収益があり、中越地震の義捐金として災害対策本部に寄付をした。

[2] その他、自主的活動の推進を図る。

- ・寮大掃除を年間行事予定に入れて予定通りに実施（年4回）し、寮の環境美化に努めた。

2. 1.1 女子寮生を含めた寮生会活動の活性化

[1] 各委員会毎に年間目標、計画を立てる。

- ・春のリーダー研修において、寮生会各委員会毎に年間目標と計画を立案した。女子寮生も寮行事、寮運営に積極的に参加し、例年に比べ活発な活動が行われた。
- ・年間を通して寮マッチを3回行い（例年は2回）、体育委員を中心に寮行事の活性化に努めた。
- ・寮生大会・送別会が卒業研究発表会の時期と重なっていたため、寮生会の希望により年間行事予定からずらして行った。これにより、卒業生の参加者が例年より増加した。
- ・月に1回ではあるが、年間を通じて寮新聞を継続して発行することができた。

[2] 寮務委員を各委員会へ割り当て、計画を支援

- ・寮務委員が、それぞれ各委員会を担当し、年間目標を決める際の助言および各委員会活動の支援を行った。

○ 総括的な評価と課題

- ・今年度から女子寮が本格的にスタートしたため、寮務主事補を中心にその運営に重点をおいて取り組み、日常の基本的なルールを確立することができた。
- ・年間目標については、いくつか不十分な点も残ったが、ほぼ達成できたと考える。
- ・今年度は、寮則違反による退寮者が例年になく多かったことが反省点である。その対応として、学寮の規則を再確認させ、違反者に対する指導内容を明確にするため、「学寮規則違反者に対する指導方針について」を作成した。寮生および保護者にその内容を周知徹底し、生活指導にあたっていく必要がある。